語林類葉　たち十

ヽ三

ホ2
502
10

ホ加2
門
502
巻
10

帝國圖書館藏

語林類葉巻之十

清多濵臣輯

多行

たの初

二言

苔

多ゝ 當

落くほ 二十二 あゝ北のくさの多ゝせんとれん君いのくさまと

とゝ〇同二下 一下 多ゝとゝのゝ多れもうれ〇

枕冊子十八 色ゝ多ゝい必せんけゝん〇狹衣一下

十一 ウ 多ゝにい君れ〇てつしれゝ〇東鑑廿五 九

波多野五郎義重進先登之処矢石中右目心神

雖遠乱則射答矢○同廿八 十四 僅造此声発箭
爰歟軍出逢馬場辺射答箭○

多け 茵

常盤姫物語 まれ多け[illegible]
[illegible]
し[illegible]○庭訓 松茸 平茸 ○今昔十二 廿七
和多利ト云フ茸必ス死スル物也ト聞テ山ヨ
リ取リ持来テ密ニ食フ○同廿八 十八 和多利
ハ[illegible]アリ可考合○紀畧一条帝寛弘二年四月

八日今日福田院別當雅静依尤大臣請来宿東
洞院土御門辺之間今朝食茸八人醉臥共中二
人死々残六人存命京中貴賤覩者如堵○万葉
十詠芳 本居云 草カ誤 高松カ 之此峯迫糸笠之而盈盛有
秋香乃吉者

多け 蘭

山家集上 多けの[illegible]

○

[illegible] トノ詞ヘ

袖中七 仲実 [illegible]

同上 師時 [illegible]

○

三言

道具（タウグ）

讃岐日記 道[illegible]

[illegible]

[illegible]

紫日記上 十六 難 [illegible]

業兒 くりの兒 四八 [illegible]

[illegible] ○出羽弁集 [illegible]

て 小た近

[illegible] 難 小山田

[illegible]

[illegible]

○[illegible]保 [illegible]

[illegible] 上人 [illegible]

[illegible] ○源礼妻記曰 文永二年五月廿日

三夜云々之切燈臺於座上置菅円座一枚大進
清隆置筒簦於円座上次殿上人臣両三人参進
置紙自下為置之上達部同置之次有擲㩡之奥事六
月二日五夜亦同○和名抄　素錢後漢書注云
一一此間云世途字知　今之㩡錢也柱苑珠叢抄云以手
有所撲謂之㩡唐韻曰㩡音諾何反撲㩡也字亦作㩡此同云駄撲音七何反㩡錢
也訓毛無○安斉隨筆引玉海

多ゝ良　高頂
文木七　多良敷隆
ちゝちのうき初に咲る和花い多ゝ良ゝ雪とゝ見る

○

多ゝさ　田草○手草
古語拾遺云以竹葉飫憩木葉為手草今多久佐
万代雑一　権少僧都證尊
多ゝさ已ゝ已のうゝ花ちる田にはるゝ春ゝ
新六　夏田　知家
志川のをゝ志ゝ多ゝ稲葉のさゝ多れ乃とゝ世田多ゝ

○

多ゝう　人ノウヘノ実事実説ヲヘタテヽキクヿニイヘリ
つゝきゝにうけ玉れ人をかゝ多れて多ゝ多ゝ真香そ

○

なづま

竹取　目もなづまにたり○文選風賦　得目爲職（メシメ）○和名職　メシウツ○

法師なづま

衆なづま

狹衣一上　四十二　法師なづまかくあれうちかるさを

ものく○

あとく

竹取　とち月のあくをと十あくをとかりてあるへの毛ものをとくうるほとく○大鏡　れいるうくこうをかれ

ものゆゆしてゆゆしく○字彙保　祭使　さいのかみきいふ

うちにかくれ○同　同　つぶきにあるをもはの○源

若菜上　えぶきにうをを河のぶる　ものにをけ自まふ○

同　同下　女御の君いかる時西をもはちつけををてうぶ

ものにはまをとのうちしてうをれうりう○河

人のみな○字彙保　ごしけ　ゆるいをくと

らうく

ものきのうをとゆゆしたあるきふ○源　けろふ

お

[illegible]人[illegible]ものにつち　よさちをはる○知頭世を
[illegible]
[illegible]
[illegible]
○業苑　若水　[illegible]
[illegible]
[illegible]人の[illegible]て　何ホドイリテモミル
ミナキタ　トヘナリ○字彙保　ミーケ　[illegible]
[illegible]
同　同　[illegible]
[illegible]　似ッカハシ　ヌタトヘナリ○同　[illegible]　[illegible]

[illegible]○同[illegible]
[illegible]
[illegible]○同　同　[illegible]
キスノッ　カヌタトヘ○同　同　天をさうさ[illegible]
[illegible]○源　須ナ　[illegible]
[illegible]
続詞花神祇　[illegible]
[illegible]
○字彙保　ミーケ　[illegible]車の[illegible]
[illegible]○同　同　車の[illegible]○狩衣　一　下　十二
[illegible]

竹取　はうほい草のもとめてわたる　○同　梶永の
はるばるとおそるきき山と多の絶　○宇都保　祭使
もろき山とのゝ多ゝと　実家　○同　もろこしを　天下をさ
う里にはしるもかつるこゝろあり　○同　今本さうの院上　あをく
さめのもとにゆりて○

もろかね　檳井

拾遺恋一　実方
もろかねの　清ぬるまいちほうき　ちんまてゝ　もむこと
堀初百　苗代　ま袖中廿
秋うしもとのを稲をこい出て　もろかねに　紅　いる
千二集下　多水祝
君うちにもろかねの清ぬ　もみうちきりて　ぬきたれ

林葉集一
山里い　もろかねの　おもけに　もろきあらうとゝみて　もろられ
新六　為家
過きしのあせの　よおめるて　もろかねの　紅　ぬきて
堀百　苗代　国信
稲の穂　おち苗代　塩をあせ　ちきて　かて　もろかねに　稲　ひるい
ちかーいる　ちかーイ
○

多賀六
主勝間　心灵屋　御灵屋　とゝ　うもう　○業
光　の　島辺野の　苗代に　二町　もう　もて　多賀　と云
もをつくりて　ついたち　ちに　ちに　おそ　ーに　さと
さうせもう　○同　ちまし　七八日　もう　ありて　北山　ゆる

所に多まるといふ事つくりてきまねて色て多くまゐんと

て○

多酒る

六帖 もゝち袖の涙に多まぬるちゝ思ひ石の底くもしらきぬつゝと

○

多むき 田向

中務内侍日記 多むきの月清七つるに○同里

きめ多きをに多きかゝ○

多んき

源 須ヲ多んきめの異れと○河 後漢書梁冀能彈碁

或者經云彈碁兩人對局白黑各六枚先列碁相

當更先彈也其局以石為之 古今詩話曰彈碁

有譜一卷皆唐賢所為碁局方二尺中高李商隱

詩云玉作彈碁局中心最不半謂其中高也道士

席謙吳人善彈碁○和名彈碁也說云彈碁今一名指

石始自魏宮文帝於此伎且好矣○源 雄り本 ちゝ

くろく多きめ多んこもゝ生て

タムケノ神

たむけ　峠
堀百

拾遺哀草上
弥生て　彩色り山の色もけふ　ゆくさきこめぬ　桜風を　羽ふく
文木廿七　後撰　春契選年
たむけ　岩の色もけふ　たをつの　ちる風ゆゑ　をるかな

○拾遺　雑上　物へ　ゆく人の　ことにぬさを　とりあ　袋
にいまて　つくしはいて　たしの
あさのゆふ　袋　ふるさと　たむけの　神を　をしみかりる

たむる　矯

後拾雑五　実方
ちはやふる　神のまもりの　君にとて　をしの　色かな　紙
○　貯兼

たむる　貯

つちはやふる　神のまもりの　君にとて　をしの　色かな　矯兼

たむけ
新訓　月令　好志
年ゆくとも　色もしらぬ　あたに　色　けふ　ゆくさ　花ぬ
○源　若菜　下　あさ　しく　色　もつ　ゆる　女性　みて　○河
陸竈　史記　○源　初子　ことし　ゆく　しく　色　きん

草。木　妻子。　草木。　和。足

めかたなりに○

なかえゞ　四言　大綬

中務日記　清ち人のい九しをもちてさけらまほしなり

なちのえしめさとくもをひなりなり○

帯説（タイセツ）

古今雑下　なかなか中をいとふ山への草木とや　あはれの花ちいろにいそれじ

○源　ちりきい河しき妻子こうちなりまんはもさいの

雨。風　雨風。　咲。散

人なほらぬはらんかりましいえんにちつりしかんえ侍りし

金葉雑下　草木はえをひらきもうちがたさへ人まめのあきさてもくなく（俗に作る）

基後集　んねさ草木ちきしてみちはなと清の庭みしうつしぬるかな（菜の花もしろく咲きたる山まにたちそて）

○今昔十九　五　只手足ノ向タラム方ニ行テ尋ニト○土佐日記　二十日あそこぶせふらに

古今物名　りちにあるつ浪のたつしを喜ばれいふうきさきる花とてらん

本居云なりちる○

同　とし作多し

なからい。

雲井のみのり清てみはまし清なりき〻なかるい○

十

本居云アフキノヅム意ハ常ニ物ヲ顧ヲ望ム
ト云同意ハ

万四
白雪の多くも降るかも山の端にあらそふまでに見えつつもあ

同十二
雪の日に出でて月の光りにも見てしまさるこの花の

○

高野日記
人ちりをもゆるかぜにはなむかへるとてちりをもゆるかぜにはなむかへるとて

○著聞五成通俗正月連歌とおもひ人みて其房中
の者ども皆色ばみたりけるとぞ○

スガホ
ぐうほ 今俗ニイフ

言塵集序 人のはなひ色をとりて顔ばせの如一

○

ふらう史

新撰字鏡等 太々良女 ○ 月隠式 多々良 賣花 ○ 風俗
哥

手鼓

宇彩保　多兵君　うしーこの毛多くとうちて○

多くふ　うイ
宇彩保　ケうけ　四段多くに人毛毛毛毛れ○同　同
思ふんなくてこ多くにきさ四きみ保れ○
同　同　おといきる世の一れきと多くに歌て○

多ぶ　肥急
志の毛れ下　志ろ〳〵多ぶと志えて○

多ぶ也
拾遺雑春　松をさして多へ花を出て行るに　之浦
○

多ぶ也る　さ〳〵る又多まうての音便書
万代雑四後朱雀院　ゆきさ世多まて後○同　同　塔
川院　ゆきまさ世多まて後○同秋上　京と中る時　ろ
の帝に多てまつる世多屋る○同秋下　祐子内親王
宇彩ろ　う〳〵る也る　こ○

多ぶ也

タマテ

あづまさこの

新古今一 長方

きみがあるのみやまとに拾ふてふ玉かにかくれあひてしぬ

後拾遺上 伊勢太輔

うりあつきつまもほすきいもかはみきみらすらのかをかくれ

万代集四 ことゝ為

てふ山ゆる名をとゝめまかの名まかはろいもてもあんをとゝん

○

あまもり 殯殿 ○殯宮 ○定家仮名づかひ

日本紀書、三万寿二年三月廿五日皇后宮藤子

崩四月十四日皇后宮葬殯玉殿了九月廿四日

前皇后藤子改葬○

あんざく

三代実録廿七短籍○同卅五短冊○タンザク哥カク物

ニハア ○枕草子 哥ヲカク物

ウラス トセリ ○枕草子 哥ヲ書くき

しきとりきて見をそうせきとて あけ宮こ 伊の清

あんざくみらはんん○斉明紀短籍○寛平菊合ニ

菊ニ短冊ツケシコアリ○クボノ スサヒ

上奏シ

あんじ四 短綬

中務日記 たちのほらしろめるまゆをほにえんしもと

て二ところ清らほろのほとにさくらまし名〻○

多〻ち紙

元輔集

多〻ちをのうるほとをもそ見たりていとさてーかのひこそ

そこらほの烟み才をやさ多くまーふ多〻ちめもさそそ色えたし

○イ本多〻ち紙

三二集下世二ウ

うきくらにて才いみ所おとしけてぬ命まとさはれ法の多〻ちを

○後撰口傳多〻ち紙い冊多〻ちをい人○元輔集

多〻ちをのあやのんを多〻紙とも

仲文集

多〻ちめの昔ちあやいさまあ〻あれさてかにうまの吟のおいさ

○

多ましが

今物語多れうーとうさ多〻る受を○

多をとりき　艶を戯を

保憲女集

うるかつの文多れ侍あにをうい多をうき名とに偶さん

○

大名

[illegible]上 大[illegible]のことも[illegible]きらしつつ[illegible]うけ[illegible]
き[illegible]にかゝる人にもたゝいつきぬるこゝ○

[illegible]

狭衣一下 世七 タユ〜 活本 ○中納言 [illegible] あい
[illegible]を[illegible]ヤ[illegible]と○同 同
○源氏[illegible]
[illegible]○竹取[illegible]
[illegible]○同 梅枝 [illegible]

[illegible]○大和物語[illegible]
[illegible]
○同 [illegible]
[illegible]

[illegible]

業平 月宴 世二
拾遺雑名 松葉 [illegible]
後拾雑三 長能
[illegible]時[illegible]

○

多けきさと

挾衣二上 北三 才

拾遺物名

いとともつくきかたをとる時い酒をけうゐ袖をそ洗うまも

後拾雜三 山ゐのほうて法師に成る侍人をーる 慈円長秋

行うゐの男ゐ成ていも多けかし さろをふうき山に住のとと

○添 浮舟 又多きことうきうゐ〜○同 蓬生 仏

法あうきほゐて多けく世をおほ〜○同 夢浮 多ほかゐ

みてもうをうにふうくをる志を多きさちゐ洗ゐと寄ふ

〜○

多けのつほ 竹上 ○未詳 異殿

山家集上 賀茂の除 呼ゐ西門をうゐ多ちの御神乐

士御門内裏みて行りたに弁の つほゐ雪の ふうゐ

ゐるをみて

うゐかくほをゐの志しうゐ弁ゐらゐたつをる志雪

○

色〜ゐのゐる

万十二

色〜ゐゐるつうゐいゐとも志をつうひゐ言しゐ志にゐえまを

拾遺哀草上

咲をゐゐ人をゐちゐうゐの音をれて嚴をーゐゐるゐ山ゐ雨

たうこう　蕾紙
拾遺哀傷
後撰十九

○源　夕邦

○同　六蟬

たちかくる
万

狹衣一上　廿九　たちをうしなふたるさとのそきにをる
髪うつ　廿日　髪のうちをふたりてゆらるふ
○枕冊子

ふれし○

たちあかり　炭がらのあかるく明へ
和名炬火　俗云太夫　阿加之　○中務内侍日記　よろこんま
うのたちあかりのさたうの○栄花　そりの炭　あくのかくる
たちあかり○狹衣三中　四十五オ　たちあかりのうるう
もあつきに○つま〳〵

たちこう〳〵
兼輔集
たつきをの松にちるのあ所かいたちこうのうちみそ人ふこそ所

○

多福を云

万代宝山 多福を云る 和泉成部 ものにも云る所也あり

○

多もしま人

業元 こまかの多ものいふ 多れの清こと いろいろ多かーうちよ

多もしま人にいふおもしまをくるる ○

多ゞ所 神ノ御旅所と ○今器ニテ御旅トイフ

榊葉日記 いりとりき清旅所 ○嚴嶋詣記 又色

しまといふ杉原に清多ゝ所を多て多り ○源 傷テ

る多ゝ所ともれ 人ゝ多ゝ 是ゝ こゝ ゝ ○ 旅宿也

多ゝの人 配流ノ人 人ヲイハリ

業元 ゝゝの高 四十一

多ゝ云ゝ

拾玉四 百ゝまぬ多ゝの六ゝに日数へて 邪ゝ多ゝ 清 高 多

○

玉にきは

萬葉 月宴十五 宛山ヲ申奉ル所 玉にきはつきあふんでうたに○源

榊 如何て見るらん西ほしくきこえいとかなしも おぼえ

まるらそんにしましとも玉の床におほまくらも 後悲ノ心ナリ 春立

ヲヱカオモヒタマフナリ ○同 玉かつら かけちいふとかくめでたく

きらけ何うらかた中ゆゑちらしを あかさせ 海かいりにほ

めきほ何ほし○

玉ぬく

朗詠文 詞遺文三十軸々々金玉声 文集

新古雑下 題しらず 大中臣能宣朝臣 もろきめ中にのいまる涙の玉のぬきとし 乱れきしあきの緒 ○

○文木卅二 あるにかゝまる玉の緒 結句にみだれとも 文木にも

るへし涙の玉も涙の玉もたまの書あるはまりしたかるを古きぬともにさとししき注あるいは契沖師もその頃にかろきし不審

○二条大貳集後拾遺 竹さしはきてせんの集をいれとそもかさせて中へき所ぞいかとしいとしとの中なる

した

巻に見しさ人の玉ぬきの涙やさままさる涙も ヨみそ 玉

返し いそかいやしをそん玉さぬ しさ緒の玉の緒いあましとも

十九

返一 名にをうきおうぎの松のあるじいとをうつ所君に告げ

月詣

思ふこのけ

続詞花 惟成

今日 哭に弥のいつきのをぶけむ下のあとを負ひてをうる

○

多賀まいり

後拾遺哀傷 三月のつごもりのころ伊きの人のもとにとき

詞花 多根好古 けと思ひ出でて思ひ出づるまゝに

をまつる年のちりにかゝりうらみ

新古雑上 後成

六帖 思ぬとも人あとゝして別年にちりの多所をとはつる

拾遺哀傷

○後撰哀傷 つぼのみ所てのうつくしきの嘆日ふる

ちりいと仕まつに 兼輔

伊きの人のもとにまかりうまれ物

ちりつ 所にて年のくれにあんれきの人のうまれをいとうとて

○四季詠 七月 伊きの国に年のくれあまたあまをし

あるゝ月きて七月の河ぶいこのあるゝ

ちりてうかゝゝ ○日本歳時記巻七引周處風土

記云除夜祭其先祖長幼聚飲祝頌而散謂之分歳○枕冊子　○つまゝ草

多田のむすび

（古今雜下）あかつゝ神のうちまゝにたゝんこゝにひのかきおちける

○江次第十九院鎮魂御玉結絲令入御竈神之鍋宮司封件鍋一口也滿年之

（小馬命婦集）ぬきてこそたにうきものなれとしをへにけり

（伊物）ぬいあはつ出にけるのあるかたんこゝにえいるもしをせに

（新勅撰二　道綱）きゝのつまもしをゝなる恋の絲の色をそ世をつくこん

（挟衣）あかつゝ衣多田のむすびのかたゝんこゝにあるもしをゝ

（小侍從）君をふとうき色なる恋のきをけていかるつまにもとをゝ

（和泉式部）相思へいさゝの葉しるかなあくまを生る恋をつゝ入る

○袋中子四見人魂云

恋いこいぬいに見れるゝ花にもとをゝ下ひもつ

三返誦之男左女右ノツヽヲ結ヒテ三日ヲヘテ解之

多田のたゝむ

鄂府記云万寿二年八月七日丙辰云々昨夜風
雨間陰陽師恒盛右衛門尉雅孝朋東對上（尚侍住所）
（ゝゝヒ）嗚呼近代不聞事也○東鑑八云文治四年五月
一日酉剋乾方成響是若魂打欲非雷声恒聞不
及云々○教王経第十名金剛安立第十四名去
識還来云々谷響集云々エタリ○礼喪大記云
升自東中屋霤（ヤ）危北面三号捲衣授于前司服
受之降自西北　危渡男子称名婦人称字鄭玄
注復招魂復魄也○

雪ふる　乘氷

堀百首早歳

隆信集

源主殿

彩日さしかのうらもあしかぬ風ふえてかの葉まにをりしにをり

曽丹集　花ニ引

彩日さしかのうらもあしかぬ風ふえてかの葉まにをりしにをり

○源　澄海

彩のうらのの

達磨宗

長明無名抄下迫体古体に達磨宗と云名目見
えたり○拾遺負外下六首書に達磨宗と云名

目録○拾玉五 四十七 達磨宗とゝ号い如此時きん
事に力を○墓後の手書とてぶめ[illegible]論せる書に
詞を[illegible]して[illegible]を不立文字の心にて
達磨宗と[illegible]○今昔世間傳教大師震旦こゝ
達テ宗ヲ兼テム所ヲ選ヒヤレリケルこれ即
天台宗カヌ禅宗ヲ云カコ○
ハ哥ノ[illegible]ニハアラス

[illegible]つくる

金葉哥上 おいひなる女の髪をうきおりてみるとを絵
ゐ 清書国基

続詞花哥中 法性寺入道
[illegible]髪をつけて[illegible]みにふりてみる
同 新院
[illegible]の[illegible]極につきつるをとゝのとゝ
新六帖 信実
人とゝいふ[illegible]の[illegible]人あき[illegible]髪[illegible]極に[illegible]つけに[illegible]
五二中
[illegible]極の[illegible]山のあき[illegible]つけて[illegible]

六言

[illegible]のきみ

業兼 兼山 四十一

臣公卿の清中に山[illegible]の君のを[illegible]つくりにおて

○大鑑一天下大

ほめまし○同二首ハたからの君貞信公におくりまし

たからの花

栄花 ちりのまに ちらしたからの花ちりて○

たからの香

たからのいけ

宇治 深いけ 宝の玉そとし をさらけてやしなふ○

同 後京極 かくるたからの王あて○ 栄花 元輔 さいこゑ

いはらおそはれ 高え たからの王にあつまし人○ 宇治

たからそ

そら北のうき かくるちりき世のたからの玉之 いつし今

云カ子 モ千也 ○栄花 音楽 きよしのたからのかぎをたきられ

て○宝樹 吹上 上 かくろうえのたからまいらする長者経

ゆきたからの玉あて○同 同 たまきさはときはの国を

つくたらさしたからの王之○同 同 よろづたからの王之

たからの神 栄花根合 未考

下るたまる彩をたにもたまたまるたからの神のたまひしたかくに

たからきさのし

拾玉四 かすもいさつもにあかまえこよかのたからのちかくたからきちらいた

古

[illegible]

源 後撰 九

[illegible]

谷軒

源 後 [illegible] 谷のうぐひす ○同 年習

[illegible]

[illegible] 引古今

[illegible]

○清輔云さいしといふ ○サウいヒノカ

[illegible]

玉くしの家

新六 知家

[illegible]

○分類云田のきくの名多ほりにある小実也○

[illegible]

延喜大神宮式太玉串著木綿賢木

続古雑下 後頼 [illegible] 名太玉串

散木

神中十四

林葉四神楽

[illegible]

同六祝

神風や玉くしの[illegible]

内外の宮に君をこそいのれ

○万代神祇　卜部兼直

[illegible]

魂の今とも　夏夜殿

[illegible]

同同

[illegible]

七言

[illegible]

西行和哥談　林鳳作

[illegible]

[illegible]

○

[illegible]

七夕祭

拾遺雜秋　[illegible]

不○

[illegible]　戚友

続世継　[illegible]

[illegible]

玉の盃

神中世四 廿七 多くの名い新しき歌の聖をいかさんとして作る○つゆ草

玉がしの葉 業花巻名

うちうして産毛白き初名もにおかしを作る歌の玉葉

○神中世

多くち稿のおく

菅万

拾遺 巻四 多くち稿のもみぢいさ免しうち稿ねたる時の景をみて作る

六帖 小町同

○拾遺 巻四 人九 多くち稿の もみぢ ちるかの 眉おもう

○万葉 多く○

八言

多くの多くの ほとけ

業花 さ段くの多くもを 十二 惟成の弟しいとしく見て色

多くの佛のかしとうえきうえて ちさかひろ○

九言

たちばなのかきへ

落書露顕序　たちばなの所のきへ　えいきてい　ふるき

くゝ

十言

あかつきの清少納　高襟御小袖

中務日記　そのうへにたちの清小袖の清ほうとも

ゝ

十一言

たちばなを車にいる

宇治拾遺　巻用中　おうなの一条殿に参りたる時柱子侍

常ゝとさちけうれ　如信　たちのうへ　同　同下　大将

かくて花たち　たちのとゝ　宣の　たちの

かゝしを　つ　ちけて　大将をうゝ人あり　丙ちとうたちて

うつきて　出　い東　一二の　気　橘　大　ゝ　常

とけ　出　たち　大将　ゝ　ゝ　ゝ　年　十

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

うにえとゝふ大将うかまゝにてとおそ[illegible]
ひぬ　○隆信集哀五[illegible]
[illegible]
しなくゝとゝきなくらいとんえかくてうの昔の
人の袖かをほしいひんあらいにもこのさゝふき方
[illegible]（緒）[illegible]（安）[illegible]（仁）[illegible]
[illegible]
[illegible]
如返―

いつまとゝ[illegible]

○建礼門院右京大夫集[illegible]
文のもはゝとあるをを返るに[illegible]
[illegible]
[illegible]
返―

[illegible]
○[illegible]隆信と[illegible]
[illegible]
返―[illegible]

ちの部

二言

ちと

中務日記 つゐでにちと入湯仕として京へ参りきぬ
○忘の記抜上 いはちと思ひ出てもの○今物語ち
ときちと免して いうて法隆寺に詣た○同
ちとくらくらと 昔みて○さ川と物語

三言

ちぐ

新千載　上畧　如是カ　定家

みかきもるしら菊の露のちりぬるうちの河水

玉葉秋下　後京極寺

うき草にうつるくもりの月の影間に吹く風ぞつまる

○業兒　玉葉　ちりぬるうちのなごりをとどめてらてんの流れをとどめて

○

ぢしき　地敷　○延喜御記河

源若下　ぢしき四十枚○花鳥地敷唐筵に大文

高麗　ぢしき　対客　ぢしき　客人てんのうちに

おのゝぢしきをもて沸湯ゆ○假字帳

東世云　ぢしきとゝ　即地敷○

ぢしき　地摺

業兒　勅兒　四十三　ちりぬるの蒙○同　同四十七ウ○

ちつけ　乳付

宇多保　あて云　春日治ノまに鎖入　たゝ糸及の北めさ　ぢちつけ○

ちぬー

源若下　小侍従といふちぬーをもいるちけ　女三ノ乳

母子柏木ノ乳母ノメヒ○

ちちを

和名抄本朝式云葦禅各一條（禅読波夜 今按ずるに詳）○讃岐日記ちちをき多るゝもの○拾遺神楽ちちをき多るゝ文をとて波ちてきゝ多るを○

ちはき

伊勢物語かさりちはきをおりて多るゝ人をとて○大和物語同○知見抄

○拾遺賀五月ちひさきかさりちまきを心をけち

あにつまこて多ゆさの朝臣のむすめに人をとて（道綱母）

ちはさ一ふりきゝたるもいちをめさまつらんに

○続日本紀云屈原以五月五日投汨羅云々世人五月五日作粽并帯五色絲及練葉皆汨羅之遺風○和名抄

○契沖云千纏也○縣居云ちはきい茅をて初に

き一ふりく一後に波ちもまこと波ちをとゝ波ひあ多

して巻一ふりくさふりく一仏一菖蒲い葉ふて

香もなりまこと波くゝき地てちまこに多ゝの糸をとゝ下

けふて一多ゝをかりちはきしくゝ○茅纏成へし

勅（チョク）

大鏡 勅撰集のことはかゝる事の次でなどいふ事もあるべし

○拾遺雑下 あるべきの如くに

久安百首 季通 月いとあはれなる時はまことに勅撰集にもかゝる事にこそ

山家集上 勅とうけたまはりてこれをかきとめ

新六つゝぎ 光俊 勅撰集にこそ

新後撰雑上 勅撰にて

○

四言

中元

唐六典 道士斎有十名〻其四曰三元斎正月十五日天官為上元七月十五日地官為中元十月十五日水官為下元○

中間（チウケン）

布衣記 永仁三年記録 一馬の取僮僕者事衛府取童一人郎従二人調度懸一人舎人二人中間六人其外八隨時ういとの若黨中間跡二上下

着召具○同一中間事折烏帽子小結常也深直垂大帷ヲ童子袴ニハ大口ヲカサ子ヲ々○

東鑑五十一弘長三年八月九日御路次間方々奉行人事一御中間信濃判官時清コレハヨホトカモキ人ナリ

○盛衰記四十五地蔵冠者ト云中間

ちうさう　誓詞

後撰哀三ふかき人に逢て心深あさくちかひをたてさしてあ[illegible]にをしる　後原院御幸

○同哀四好古朝臣

にさ〳〵あさ〳〵ちかひをたてゝ又のあ[illegible]につゝえしる

林葉五不用誓言哀

ちかひをしうき方いかゝあるべしかをもかをもかをもしらぬ

○同欲望疑哀○同責誓言哀○清少集ちかひをたてゝ○

ちかひ　兄生

栄花かゝる多つほうの御ちかひいとたゝ[illegible]ものいひ

○同元山廿四うの御ちかひあるべしかゝるそあるべし○

ぢごく　地獄繪

赤染集二世ちかひをたにたのみ人をうけ[illegible]をみて

つゆ[illegible]に[illegible]ぬ[illegible]

ちゝ[illegible]　又

源　東屋　○同　サ女　○

ちゝ[illegible]　千別

万葉六

拾遺雜上

ちゝに[illegible]

千分いカキアママレル　○トニカリニトモカ
ナリ千名トアリシナリ　如シイロ〳〵ノ葛ニ
六帖あさ衣

ちゝ[illegible]　落過

万八

[illegible]

外ニモ多　○
クアリ

ちゝ[illegible]　笛譜ないもうとうぶ

後拾遺　雜

笛の[illegible]

○

ちゝ[illegible]

源 須テうゑへいちうをうゑてあるみ所にいくへもうゑ○和
泉式部集 あはひてはいつ所と思ひ所にあてはてみ
ましいなくちうちを色をうしなふ言

五言

ちうとゆふる 箭声

今昔廿六 廿四 箭ノ千ウト鳴テ暑千ウト鳴テ外
へ返々レい○

ちうこゆふる 近辺ニモ又マコトノ蓬ニモイハリ

拾遺雑秋 ちうとゆふる所にうゑうゑて○みゑ
之集同○拾遺 同 石ゆふるゑにとみてかくちうこゆふ
ゑにあるゑをとゆふるゑ○みゑ之集同○ゑゆふ 風濃 上
ちうとゆふるあてい浮中ゑてはゑと○

ちうゆふる
萬集
ゑうてゑゑちかゆふゑ此の花ゑひゑ所ゆふ堀を中

○源 角 徐 ゑうゑちかゆふゑ
同 ちうゑちかゆふゑ
と○源 松四 ちうゑちかゆふゑ

ちかおとう

ちるを草 未詳

異本堤中納言物語 あるかたきとのに花しをちる

夢にのぼりてみるまでにあるかまて○

ちるを草

千雜中花宴に法師ども金堂の内の花のちる

をみて詠る 後が

ふるさとをいとさら花ちりのををしをしをしをしを

ちるをぐさ 散ゝサズ

常花 ちりを草 ちるを草 いまの世にたちち

ちさにあさ立ちたちもとせをしに○

ちるさめて

続詞花 咲

ちるを草

金葉雜下 碎の多利寺に花のちるをみて詠る

花ゝ移をしみ世まし法の為ちる花そと ちるを草

花ゝ実の花を数花の花ゝ○

ちゝぬ元

千春上　右大臣

ゆくすゑいとふんされるゆ一ちゝぬ元さく色ゆうさん

○

六言

ちうき、ゆとり　近衛

後拾雜五　三条院御製

いかへのちうきゆとりをたゝる落ゆれいもゆるさくらん

○字紀保　花間　ヲ頃ちうき　ゆとりに侍つるを

ソノヒヒニテ心ヤスクスルヲイフ

○

ちうきとふゝ　警詞神文

千歳五　九大将朝光ちうきとふゝをうけたまはりてかきつけ侍

さしもさ先ゆくすゑをしるらん　馬口侍

ちうきふるゆゝの社ゆ神もきけきゝ給ふ所ゆ元し

○

ちゝ車　今俗ニ大八車ト

栄元　製　ちうくるゆにえとりつるぬるゆ上ゆ

つけてさゆ元ゆくゝふゑゆきをとりつゝ

○

ちはさうらう　幼少ヨリ

[illegible]　ちはさうらうにかしまつる

て○

ちはきさらら　男巻柱カ○地横柱ヲ本地ノ内ノ内

長明無名上　ちうゑの中将ハいとこ　ちらかれもつ

ゐもあるはちまきさらいふやうにて行ゐをいり

ちうの人の之ちまきにうめちまきいりてらの中にうつ

れりてあんゐるし○

ちをのちをり　後拾神祇

さうつきにまゐりきこうけのうえぬきいちのちをりのわしをも　そのふ袋

○袋ヤ子○

ちををしをふ　今俗ニコヽロハカリニワサト云ヒ

落窪三　ヤ四　北ノ方ヨリ女房ヘ　マヤウスル文　さいまいかいかくはれ

るゆをりに出るにいちをもちをきて　[illegible]

千とせ行かの久
源幻　[illegible]
に[illegible]へうる○

ちふるのもくい

ムネノチフサ

字鏡

拾遺哀　行基
[illegible]
同　道信
[illegible]
○菅丹集　長ぶ
[illegible]

○和名　○栖房　遊仙窟

ちるに沖する　和光同塵　老子

山家集下　和光同塵ハ法華の[illegible]
[illegible]

万代神祇　祝部成茂

拾玉三　十六

万代神祇　土御門院

○

○

ちるのうゑうゑ

金雑下
[illegible]

○

八言

[illegible] 卯月

新六

六帖 十 [illegible]

新勅集

○盛衰記四 十二 卯月ハ神ノ月ナレバ再拜ト云

人モナク

ナヘクタノミツリ

著耿政

万代雑二著耿政 道命法師

[illegible]

○拾遺抄注云市門ハ七条猪隈ニ市屋アリ市

発アル所也著耿祭ナリ毎冬二度アリ○公事

根源

[illegible]

野守鏡序 [illegible]

[illegible] ○白氏文集 観兒戯詩 弄塵復剛

草○剛詠佛事浪洗欲消鞭竹馬而不顧雨打易

破剛苔鶏而長忘 私註云周公旦世家云攻

鶏者剛以苔吹其羽